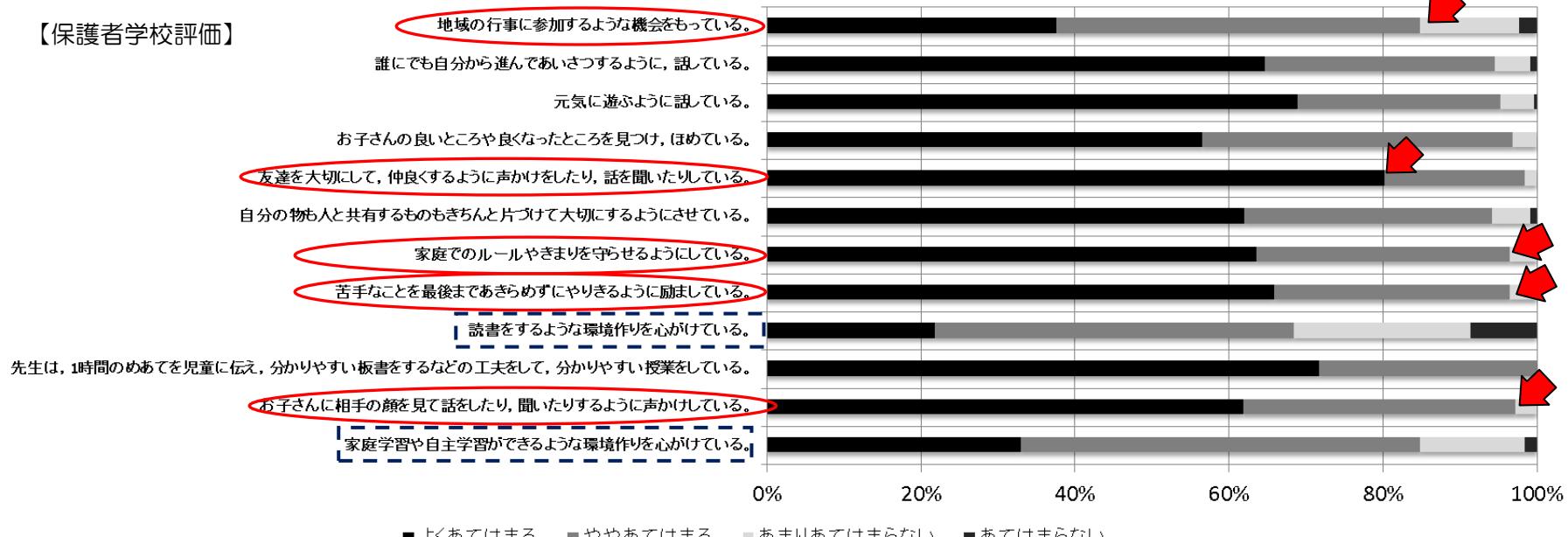


多くの保護者の皆様にご回答いただき、ありがとうございました。集計結果を報告させていただきます。

## 【保護者学校評価】



## 保護者

一番大切にしている項目が、前期と同様に「友達を大切にして、仲良くするように声かけをしたり、話を聞いたりしている」でした。今回、「よくあてはまる」が、80%を超えるました。児童自己評価でも、一番「よくあてはまる」と評価している項目が「友達を大切にし、仲良くしている」で、80%近い数値を示しました。各ご家庭で大切にされていることが、子ども達にしっかりと伝わっていることがよく分かります。前期と比べ、大きな変化がない中、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の評価が上がっているのが、上記のグラフで丸で囲っている項目です。「地域愛」「規律の遵守」「やりきることの大切さ」「目と目を合わせてのコミュニケーションの必要性」を、ご家庭でも子ども達を温かく見守りながら伝えてくださっていることがこの結果から窺い知ることができます。これからも子どもたちへの、温かいお声かけをよろしくお願いいたします。

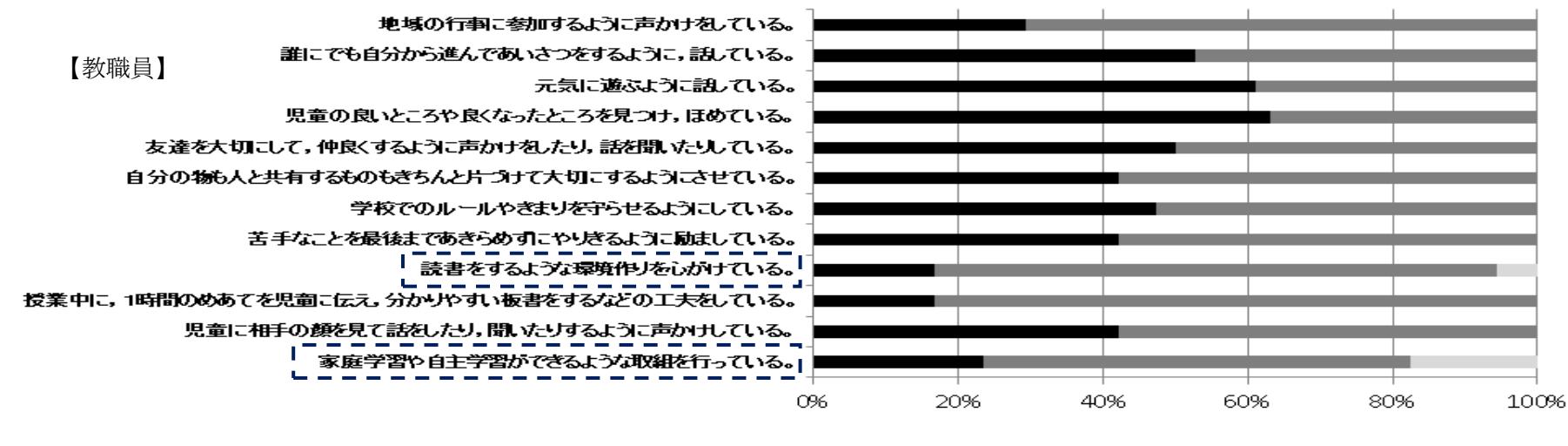
## 【児童自己評価】



## 児童

今回の児童評価では、ほとんどの項目で「よくあてはまる」が前期と比べ減少しています。これは、子ども達の目指す到達点、理想が高いところに設定された故、「前向きな減少」なのか、子ども達の「意欲の低下に伴う減少」なのかと考えられます。前段で示した保護者学校評価の結果、学校での取組、学校での子ども達の様子を見る限りでは、「前向きな減少」と捉えたいところですが、今年度も引き続き子ども達を見守りながら検証していきたいと思います。その一方で、前期と比べ「よくあてはまる」「あてはまる」が上がっている項目が、「紫野の地域のことが好きである」、「授業が良く分かり、授業が楽しい」の2項目です。この2項目の結果に影響しているのが、研究教科として取り組んでいる「生活科・総合的な学習の時間・生活単元学習」の存在かもしれません。地域の人や事、物との関わりを中心とした学習で、地域のことをより知り、より好きになり愛するようになってきている。地域と触れ合い、自分たちで課題を見つけ、自主的・意欲的に進めていく学習が、「授業が良く分かり、授業が楽しい」につながっているかもしれません。教職員の評価から、「読書をするような環境作り」「家庭学習や自主学習ができるような取組」等、より努力すべき内容に関しては保護者・地域と連携を取り、改善を図りながら、学校教育目標である「夢に向かって自ら未来を切り拓く子どもの育成」に向けて教職員一同より一層努力していきたいと思っております。31年度も引き続き、ご理解・ご協力よろしくお願いいたします。

## 【教職員】



■よく努力した ■努力した ■あまりできなかった ■できなかった